

短歌に託す余生

本郷友信

仕事を退いた3年程前に、地元の短歌会に入会した。月例の歌会に参加して、作歌暦の長い先輩に揉まれながら、徐々に楽しみ方も会得してきた。現在は3つの歌会に所属し、2つの月例会に出詠参加し、それぞれの大会等の年中行事にも出席している。月刊の短歌誌には、毎月10首以上の定期出詠を義務つけられており、旬刊の会誌への出詠もある。

自分の日常身の出来事を記録し、今まで見逃してきた自然の移ろいについても、観察の目を確かなものにしようと努めている。訪れた遺跡、寺社仏閣にも好奇心を持ち、歴史上の事績等を学ぶよう心がけている。常に作歌のモチーフを探し、なんとか三十一文字にまとめようと苦心の毎日である。

作品の評価は別にして、自分の余生を記録する日記のようなものと割り切って、短歌三昧の日々を過ごせることに幸せを感じている。

直江兼継公(天地人)の事績を偲んで八首

戦国の幕引き望みし上杉の志こころぞ語れ神指けやきこうざし

望まざる国替えを受け計る夢阿賀野の川は越後に入りぬあがの

自らの条理を示す直江状天下を分かつ覚悟にじみてなおえじょう

己が識る勝機を抑え革籠原しのぶ土塁に秋かけ長ししかわごはら

上杉の誇りと見立て兜山仰ぎて暮らす城下の辻にかぶとやま

松川の奔流治めし石堤夏草が這い南の原にながれ

興亡が常なるときに義を貫ね苦渋の道は御廟に残りごびょう

めずらしき万年塔と呼ぶ墓石決意を秘めて城下に眠るまんねんとう

平成22年のNHKの大河ドラマ「天地人」の直江兼継公は、私の故郷米沢の城主であったので、ことさら期待し毎週が楽しみであった。幼い頃から教えられてきた事柄が随所に演出されていた。ドラマで認識を新たにすることは、会津若松市内に現存する、未完の巨大な城跡の

ことである。上杉藩は秀吉の意向により、120 万石となって越後から会津への移封となったが、それには江戸への抑えとして、神指城(こうざしじょう)の築城がついていた。この城は、工事半ばで関が原の戦が始まり未完に終わったが、大阪城に比するといわれた。

はやぶさの帰還を称えて十首

彼方より送り来れる写真にはラッコに似たる小惑星^{いとかわ}浮かぶ

はやぶさ 探査機は宇宙に漂う小惑星^{いとかわ}の微粒子^{すな}啄ばみてカプセルへ吸う

いとかわ 小惑星^{すな}の微粒子吸い込みを成したのち交信を絶つ探査機^{はやぶさ}いづく

電池切れ交信途絶え探査機^{はやぶさ}は迷子となりて宇宙に三年

諦めず知恵と工夫の執念に交信は成り探査機^{はやぶさ}地球へ

はやぶさ 探査機の越せざる壁は大気圏七年の旅終わりにありても

いだ 抱きこしカプセル地球へ届けんと身を焼き尽くし探査機^{はやぶさ}消える

はやぶさ 探査機の先に光りつカプセルは灼熱に耐え地球へ着地

成し遂し宇宙のサンプルリターンはギネスの認む最初の快挙と

太陽系誕生の謎解き明かす一步となりぬこの挑戦は

22年6月、宇宙探査機(はやぶさ)の7年がかりの宇宙からの帰還も、胸の躍るニュースであった。当初私の関心は低く、マスコミの報道を軽く聞き流す程度であった。たまたま講演会を聞く機会があり、はやぶさは我が国の宇宙開発の技術陣が、NASA に対抗して太陽系誕生の謎ときに挑んだプロジェクトであることを知った。限られた予算のなかで工夫し、粘り強く耐えての帰還成功の快挙である。

時あたかも鳴りもの入りで事業仕訳のつむじ風が吹いていた。インターネットを開き、本を買い、映画を見てその内容の理解に努めた。掲載歌は、50首余り読んだものの一部である。

東日本大震災の発生直後を悼んで七首

横揺れは大きくゆっくり続き不気味な予感スーパーの二階で
止まらない揺れに恐怖がよぎり来て悲鳴の中を外にのがれる
船は屋根車は二階に突き刺さり驚愕のさま津波の跡は
病院の四階の窓破りしと過去に聞かざる大き津波は
引く波に叫べど戻るすべもなきあまたの人を呑み込みし海
日頃から絆のつよき人びとは悲嘆のなかに支え合い生く
早池峰に鎮もる神に願いたしこの宿命を断ちたる術を

23年3月に発生した東日本の地震と津波は、その規模の大きさに胸をつぶされる思いであった。謹んで哀悼の心をもって、自分の感じたままの言葉で残し、後世に伝えたいとの思いを強くした。テレビに釘付けとなり、目にするまま一気に短歌にまとめて2日で60首になった。

しかし、福島原発の被災が報道されるにおよび作歌はやめた。同じ地震による津波に誘発された被災とはいえ、こちらは人災であると言い切りたい。うかつな表現が許されない重いものと考え、息をのんで成り行きを見つめている。

「なでしこジャパン」の優勝を祝して七首

W杯を頭上にかかげ歓喜する「なでしこジャパン」に紙吹雪舞う
猛攻と先行に耐え追いつくはクリアを拾う「間宮」のゴール
延長戦えんちょうも先行許しあきらめを「澤」のゴールでドロー呼び込む
追いつきしゴールシーンの「澤」の影アメリカ選手に囲まれ見えず
アメリカの五人の選手と絡み合う「澤」の右足わずかに伸びる
ねばりにて怒涛の攻めを守り切りパスを回して優勝果たす
長身の外国選手に揉まるもパスを回せる技は光れり

平成 23 年のサッカー界は男女とも大活躍の年であった。男子は 1 月、4 回目のアジアカップを手にした。活躍には多くの名場面があった。今回掲載を省いたが、「絶妙のセンタリングを李のボレー深夜の一瞬アジアを制す」他 15 首に記録している。

つづいて 7 月にはなんと、なでしこジャパンが女子ワールドカップ戦で優勝。まさに夢の中の出来事のように、このようなテレビ観戦はそう体験できることではないと思い、16 首を詠んだなかの一部である。